江戸川総合人生大学発 ―― 人と地域をつなぐ情報紙

ひと あい えどがわ

No.14

EDOGAWA SINCE 2004 SOUGOU-JINSEI-DAIGAKU

http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/

江戸川総合人生大学 入学のお勧め

【北野学長と学科長】
（左から：ギッシュ先生、佐谷先生、北野学長、村田先生、三輪先生）

江戸川総合人生大学の情報紙「ひと　あい　えどがわ」のこの欄で、種々のお勧めをしてきました。これらは「地域デビューの勧め」、「気配りの勧め」、「学問の勧め」、「視点を変えることの勧め」、「自利利他の勧め」、「筆まめの勧め」です。

これらの勧めのなかで私が一貫して言いたかったことは、

1）これからは物の豊かさから心の豊かさを求める時代になること

2）心の豊かさとは他者から感謝されること、言い換えれば生きがいとも言えること

3）この生きがいは自らだけに向けて求めるものでなく、他者にもそれを波及させること

4）他者への親切心がお節介にならないように、しかるべき勉強が大切なこと

5）知識が増えることは心の財産が増えることで、人生がさらに豊かになること

などです。

自助、共助、公助という言葉があります。自助は自らの努力、公助は行政からの支援ですが、これからの豊かなまちづくりには共助という視点が欠かせません。江戸川区の推奨している協働に繋がる考えと思います。この自助、共助で生きがいのある人生、人や環境にやさしく、住みやすい江戸川区を作っていくことが大切と思います。

私は定年後のいわゆる第２の人生こそが本当の人生と思っています。家族を守るために、また職場を守るために自分の本意とは異なる意見や行動をせざるを得ないのが現役時代だと思います。定年後に職場とのしがらみを離れ、子育てという重圧から開放されたときから本当の人生が始まります。人生50年の昔の時代とは異なり、今や人生80年の時代です。定年後、子育て終了後の時間は 20年もあります。

現役時代の１日を振り返りますと睡眠、勤務、子育ておよびその他が大体3分の1ずつです。現役引退後は勤務、子育ての3分の1がなくなりますので、睡眠以外の時間は２倍になります。つまり定年後の20年はこれまでの40年と等しくなります。

この40年をどう過ごすか。そのひとつの解が江戸川総合人生大学にあります。

これまで多くの区民が江戸川総合人生大学で学び、本当の心の豊かさを実感する人生を送っています。ほとんどすべての学生が江戸川総合人生大学で学んでよかったと言っています。これは大学関係者としても大変うれしいことです。

皆さんもぜひ江戸川総合人生大学で学び、多くの友人を得、生きがいを感じてみませんか。私ども一同、皆様の入学を心からお待ちいたしております。

江戸川総合人生大学　学長　北野　大

～北野学長が環境保全功労者表彰を受賞！～

応用科学の専門家として、また、化学物質に関するリスクコミュニケーションの第一人者として、環境省が推進する環境保健行政において多大な貢献をしていることなどの理由から、北野学長が、環境保全功労者として環境大臣より表彰されました。

江戸川総合人生大学 新入生募集！

学　科　名	授業（30 回／年）
江戸川まちづくり学科	金曜日 14:00 ～ 16:00
国際コミュニティ学科	火曜日 14:00 ～ 16:00
子ども支援学科	木曜日 10:00 ～ 12:00
介護・福祉学科	水曜日 14:00 ～ 16:00

【申し込み資格】　区内在住・在勤・在学の方。年齢制限はありません。
【修 学 期 間】　2年間
【授　業　料】　3万円（1年間）※実地授業時の入館料等、実費分をご負担いただく場合があります。
【申 し 込 み】　区役所・各事務所・図書館・コミュニティ会館などで配布している「入学案内」に添付されている入学願書に必要事項を記入の上、江戸川総合人生大学事務局（〒133-0061 江戸川区篠崎町７－２０－１９ 篠崎文化プラザ）へ持参または郵送してください。
【問　合　せ】　☎０３－３６７６－９０７５

人生大学　地域のために自分の力を活かしてみたい。江戸川総合人生大学はそんな方を応援するために江戸川区が開設した大学です。
（＊学校教育法で定める正規の大学ではありません。）

江戸川総合人生大学って…　心に残った授業

１年目の学びを終了した各学科の６期生が「心に残った授業」をレポートします。

江戸川まちづくり学科
～「何かをしたいけど？」～

会社を円満退社、事業の引き継ぎ完了、子育て終了。さぁて、明日から第２の人生。目標は「ピンピン、コロリ」。あれ、「何かをしたいけど？」、「どこかに行きたいけど？」、「誰かと一緒にしたいけど？」。さぁて困ったと暇を持てあましている方は、江戸川まちづくり学科へどうぞ。

「何かをしたいけど？」と悩んだ方。江戸川まちづくり学科の授業『えどがわの種探し』では、地元の伝統工芸家が歴史と伝統を守るため何を求めているか、エコ問題に取り組んでいる方が何をしているか、障がいを持つ方や熟年の方たちがどのような環境で生活されているか、地元商店会が活性化のためにどんな活動をしているか等を学びます。きっと、「私にも出来ることがある」と気付きます。

（地元の伝統工芸家を訪ねて）

「どこかに行きたいけど？」と悩んだ方。江戸川河川敷の「篠崎ビオトープ※」（北篠崎バス停より堤防を上がり下流側すぐ）や区内の幼稚園を、環境整備で活躍する先輩の解説付きで見学できます。

「誰かと一緒にしたいけど？」と悩んだ方。同級生の仲間と一緒に「一之江名主屋敷」のガイドをしている先輩の「お話会」などに参加してはいかがでしょう？

２年間の在学中で自分に合ったものを探し、仲間をつくり、第２の人生を有意義に楽しめます。精神と身体を鍛え、目標の「ピンピン、コロリ」（死ぬまで元気）を達成しましょう！

※ビオトープ(Biotope)とは、ドイツ語のbio(生物)とtope(場所)の合成語で「多様な生命体の共生住み分け地域」という意味

（まち６期：野地）

子ども支援学科
～知りたいを胸に秘めて～

子ども支援学科で楽しく学んでいる学生の皆さんにインタビューをしてみました。

編集委員「さて、早速なんですが、これまでの学科の授業を受けて、為になったり、興味を引かれた内容って具体的にはどんなことがありますか？」

学生Ａ「私はクラスがスタートして最初に受けた『コミュニケーション』の授業が為になりました。友達作りのきっかけにもなったし、助かりました。」

学生Ｂ「私は児童虐待の現状を追う内容の授業です。今の社会においては、この問題を外しては通れない事だと思うし、自分達に出来る事を真剣に考えさせられましたからね。」

学生Ｃ「そうですね、すべての授業が大変勉強になったのですが、これまでより少しだけ我が子の成長、子育てについて客観的に考えられるようになりました。あとは子育てする母親の悩みなんかも、クラスのお友達に話せたりして…。」

編集委員「なるほど、皆さんはいろんな目的で学校生活を楽しんでいらっしゃるのですね。」

今回のインタビューで取り上げた事柄は、一部の学生の声です。他にもたくさんの声があり、皆さん様々な**「知りたい」**を胸に秘めてこの学科に通っているのがとてもよく伝わってきました。学問という視点から**「子ども支援」**を考えるのは簡単そうに見えて非常に意義深い事だと思いました。

（円卓形式での授業）

（子ども６期：小谷・林田）

国際コミュニティ学科
～日本の音楽の源流を学ぶ～

国際コミュニティ学科では５講義目に、目黄不動尊最勝寺（平井一丁目）の山田俊尚住職による、日本の音楽の源流ともいえる**声明（しょうみょう）**と**雅楽（ががく）**を学びました。

声明とは、インドから中国にもたらされた仏教の儀式音楽です。平安時代初期に最澄と空海が唐に留学し、声明を伝え、それぞれ天台声明・真言声明の基となりました。このほかの仏教宗派にも、それぞれ独自の声明があり、現在も継承されています。また、アレキサンダー大王の東征後ヨーロッパに伝わったと言われ、ヨーロッパ音楽のなかで再現することが出来る最も古い音楽のグレゴリオ聖歌に非常に良く似ていると言われています。**雅楽**は、中国の伝統音楽で、ベトナムの雅楽や韓国の国楽とは兄弟関係にあたると言われています。

講義では、雅楽の楽器の分類とそれぞれの楽器の名前（呼び方）を教わり、最後に山田住職の声明とメンバーの皆さんによる雅楽を聴き、バラモン教から伝わる仏教音楽を学ぶことができました。

さらに、雅楽にまつわる言葉が現在でも多く使われていることを知り、驚きました。

そのうちの幾つかを紹介します。

- 塩梅（あんばい）：ゆっくりと音程を調整し、音の具合を変更すること。
- 呂律（ろれつ）が回らない：呂と律は曲調の大分類で、呂旋法を前提に作られた曲を律旋法で歌おうとすると言葉の調子が狂うこと。
- 様（さま）になる：左方舞が上達すること。

（雅楽演奏の様子）

（国際６期：田代）

介護・福祉学科
～介護予防は生きがいづくり～

当初江戸川総合人生大学での介護・福祉学科の授業は、どんな内容かなと大変興味がありました。

高齢社会の課題から介護保険制度の概要、介護予防、認知症の各種問題、各種高齢施設など、今後個人個人が避けて通れない身近なテーマで大変役に立つ内容でした。

特にその中でも「介護予防は生きがいづくり」をテーマにした授業で山口県にあるデイサービスセンター「夢のみずうみ村」のあり方と介護に対する情熱に心を打たれました。“人生に定年はない、また生かされているのではなく、自分の意思を大切にし、いつまでも現役の気持ちを持ち続けること”の必要性を理解し、**自分でできることは自分でする。**この当たり前のことを改めて知らされました。

（授業の様子：村田幸子学科長（右）とＮＰＯ法人「夢の湖舎」理事長 藤原茂先生（左））

プロの介護とアマの介護の違いについての話があり、ただやさしくすることが良いのではなく、時には支援の手を引いて待つこともプロの介護である。過剰な介護は決して、本人の為にならないことを強調していました。

また、授業の中で現在のデイサービスセンターの１日の過ごし方の違いについて、多くの施設は決められたスケジュールを基に介護が行われているが、この施設は自己選択・自己決定方式であくまで本人の意思を尊重した運営の仕方で、その方の生きがいを大切にしていることを学びました。

最後に、必要なのは知識より意識が大切であるとの話があり、例えば歩こうとする気と歩かされている事との違いを認識し、意思がすべてであることの大切さを強く感じ、大変感動した授業でありました。

（介護６期：伊久美）

第５回 江戸川総合人生大学祭
～学び、ふれあい、豊かな心～

2010年7月31日（土）　10時～16時（予定）
於：タワーホール船堀

皆さんのご来場をお待ちしております。

ボランティアセンターからのお知らせ
◎夏のボランティア体験

夏休み中（７月17日～８月31日）に、ボランティアを体験してみませんか？
活動先は熟年者施設、公園など100か所以上。どなたでも参加できます。

【受　　付】　６月26日（土）から
【申　　込】　ボランティアセンター
【必要なもの】　ボランティア保険代　600円

【申込・問合せ】ボランティアセンター　江戸川区松島１－38－１グリーンパレス内
電話：5662－7671　FAX：3653－0740

えどがわエコセンターの会員になって、活動しませんか？

えどがわエコセンターが事業に必要な経費を負担して、えどがわエコセンターの正会員団体が、地球温暖化防止に役立つイベントを企画・実施しています。
エコセンターの会員になって、みんなで日本一のエコタウンをめざしましょう。
（年会費／　団体正会員（非営利）５,０００円）

特定非営利活動法人 えどがわエコセンター
（タワーホール船堀３階）
電 話 /03-5659-1651　ファクス /03-5659-1677
メール /edogawa-ecocenter@bz01.plala.or.jp

発行日／2010年7月1日　発行／江戸川総合人生大学　編集／「ひと　あい　えどがわ」編集委員会

江戸川区を知る＜第1弾＞

住んでいると意外と知らない自分たちのまち。新シリーズ「江戸川区を知る」第1弾として、江戸川区学芸員の樋口氏に3回連続で執筆していただきます。

愛しきわがまちの軌跡②

川を掘ってまちが動いた

樋口政則

昭和22年9月のカスリーン台風による豪雨で、利根川の堤防が決壊しました。決潰口跡の碑（埼玉県大利根町）につぎのように刻まれているそうです。「異常な降雨を集めた利根川は昭和22年9月15日夜半この堤防を溢れ決壊しその濁流は遠々と東京都を浸しました。（中略）過去の改修工事では、利根川を守りきれない事が明らかになったにも拘らず戦争の噪音にまぎれて治水を怠ったからであります。（下略）」（高崎哲郎『洪水、天ニ漫ツ』）

多くの犠牲のうえに刻まれた痛恨の一文は、治水の遅れが沿岸の人びとに予測を超えた取り返しのつかない苦しみをもたらすことを示しています。しかし、その治水のために掘られた放水路も、地域のつながりを大きく変化させるものでした。

明治43年8月の洪水は関東全域で河川が警戒水位を越え、埼玉県内で13カ所にわたって決壊した荒川の水が墨田川（当時の荒川下流にあたる）から江戸川の下流部にいたる低地におしよせました。この結果、洪水を速やかに流下させるための荒川放水路の開鑿が決まり、大正2年に工事が始められました。上平井で中川を分断することになったので、左岸に中川放水路も掘られました。これらの工事には、江戸川区域からも農閑期に農家の次三男が働きに出ていたといいます。（絹田幸恵『荒川放水路物語』）

大正３年、荒川放水路開鑿による町村の統廃合がおこなわれました。4月1日、船堀村・小松川村・平井村が廃止となり、このうち旧西小松川村と船堀村の大部分が松江村（現在の松島）に、平井村の一部が奥戸村に編入されています。そして、3町の残りの部分で小松川町が新設されました。当時、荒川によって分断された小松川地区の面積は江戸川区の1割ですが、区内人口の3割にあたる人びとが住んでいました。また、小松川に土地を持っていた地主も荒川放水路の東側におりました。結局、旧中川を境界にすることにし、小松川地区も昭和7年の市郡合併で江戸川区となりました。荒川から分流する岩淵水門は大正13年に竣工し、通水がはじまり、放水路の工事は昭和6年に完了しました。

（新中川放水路の工事）

新中川も、江戸川区に大きな影響を与えた放水路でした。昭和13年の計画当初、区の中心部を東西に分断し、40町歩の農地が水没するといって騒がれました。地元は、荒川のように河川敷をつくらず、船舶が容易に岸壁に接岸できる運河を要望し、江戸川運河という名称を希望していたようです（昭和14年江戸川区議会「意見書」）。戦争で中断していた工事もカスリーン台風後に再開されました。しかし、洪水対策のための放水路でしたので、高い堤防が区の中心部を分断することになりました。

次回は、愛しきわがまちの軌跡③「金魚・レンコン・花のまち」の予定です。

同窓会の窓

気温の寒暖の差が例年にも増して激しいようです。東京ではすずめの生息数が減ってきていると言われていますが、植生物と人間との関係が微妙にバランスを崩しているのではないでしょうか。しかし木々の緑は日増しに色濃くなっています。

学生の皆さんは卒業発表や一年間の学びのまとめ等、一番多忙な時期ではないでしょうか。

同窓会では大学祭、オープンキャンパス、ボランティアフェスティバル等の参加について議論を進めています。本会の、学生募集への協力と同窓生の活動の一端を広く区民に知っていただきたいと願っています。

高齢化社会や親子関係の崩壊等悲しい出来事が毎日のように報道されています。私たち同窓生は、行政では手の届きにくい、「身の回りのすきま」をていねいに掘り起こし、「すきま」を埋めていきたいと考えています。

卒業を間近に控えた５期生の皆さん！２年間の学びを実践する時がそこまで来ています。

★イベント・サークル情報★区民の皆様のご参加をお待ちしております

催し	日時	会場	費用	主催・お問い合せ
サタデーネット ヨーガ教室 講師　小柳敬子	毎月第１、第３水曜日　１８時～２０時	タワーホール船堀 ４Ｆ 和室	入会金　1,000円 １回　1,500円	サタデーネット　髙橋 TEL　03-3670-8955
葛西ほほえみの会 お食事とレクレーション	毎月第２火曜日　１１時４５分～１４時	葛西区民館	500円	藤沼 TEL　03-3688-7143

公開講座のお知らせ

江戸川総合人生大学では４月より毎月１回公開講座を実施しております。

７月の公開講座

講座名　「このまち」にあるもの
講　師　吉野　裕之
日　時　７月５日（月）14：00～16：00

８月の公開講座

講座名　「子どもが育つことは大人も育つこと」
講　師　宇田川　久美子
日　時　８月３日（火）14：00～16：00

事前申込が必要です。くわしくは「広報えどがわ」をご覧ください。

編集後記

編集委員に6期の新しい仲間を迎えて、ここに「ひと あい えどがわ」の第14号をお届けいたします。

江戸川総合人生大学の素晴らしい魅力を区民の皆様にお知らせしたいと願っております。その思いをどれだけお伝えすることが出来たでしょうか・・・・。

今後も地域の方々と卒業生、学生とを結んで新しい情報や素敵なお話をお知らせしたいと思っております。

編集長　杉山　力

●編集記事に関するお問い合わせは、大学事務局まで　電話：03－3676－9075

「ひと　あい　えどがわ」編集委員

【5期生】金子律子、坂井敏子（江）杉山力、細谷久子（国）小杉裕子、熊倉広美（子）木元和子、宮道益江（介）

【6期生】川名信義、小林隆子（江）田代耕太郎、田中サチ子（国）小谷勝彦、林田淳子（子）伊久美明、水野フジ子（介）